

6. 営業活動

(1) 掘り起こしへの協力

- ① PCB特別措置法（特措法）届出データとJESCO登録データを突合しJESCO未登録が判明した469保管者に対して、自治体、JESCO連名でJESCOへの早期登録、早期処理を依頼する文書を発送し、登録が完了した保管者については、定期的に自治体に報告しています（4半期毎）。現在約8割の進捗状況です。（342者登録済。他に安定器15者、低濃度25者が判明）
- ② 電気事業法届出データとJESCO登録データを突合し使用中で且つJESCO未登録が判明した74保管者に対して、中部近畿産業保安監督部近畿支部（以下、「近畿支部」という。）とJESCO連名で電路からの取外し、JESCOへの早期登録、早期処理を依頼する文書を発送し、登録が完了した保管者については定期的に近畿支部及び環境省近畿地方環境事務所に報告しています（1か月毎）。こちらは現在約9割の進捗状況です。（67者登録済）
- ③ 前年同様、近畿支部が企画した令和2年度電気使用安全月間説明会が2府4県の電気主任技術者等を対象に7、8月に開催され、9会場で約1,000名に対してJESCOへの早期登録、早期処理の働きかけを行いました。

(2) 総ざらいの取組

- ① 自治体との定期的な打合せ
 - ・未処理保管者情報と取組スケジュール、また新規登録保管者情報、特措法届出データにおけるJESCO未登録保管者情報の共有をしています。
 - ・登録や契約に応じていただけない保管者に対する早期処理の指導、掘り起こしで発見された保管者情報の提供など、自治体に協力を依頼しています。
- ② 具体的な取組内容
 - ・平成27年度は和歌山県、平成28年度は滋賀県、奈良県、平成29年度は京都府、大阪府及び兵庫県で総ざらい活動をスタートしました。地域専任担当者を設け、保管者毎に登録及び契約締結を進めています。
 - ・自治体の掘り起こしによって、JESCOに新規登録された保管者については早期に現地訪問、個別交渉を行い、処理を働きかけています。登録や契約に応じていただけない保管者には、処理いただけない理由等を確認し、自治体へフィードバックを行っています。
- ③ 自治体の立入調査への同行
 - ・JESCOへの登録や契約が進まない保管者に対しては、自治体の要請に基づき、自治体の立入調査に同行し、処理手続き等を行っています。

(3) 処理手続(JESCOへの登録、契約)が進まない保管者の見通し

JESCOへの登録や契約が進まない理由としては、処理費用の工面が困難、処理制度に納得できない、また保管者と連絡が取れないなど、何らかの理由で手続きが進んでいませんが、自治体とともに処理に応じていただくよう取り組んでいます。

このような処理手続きが進まない保管者の状況は下記の通りです。

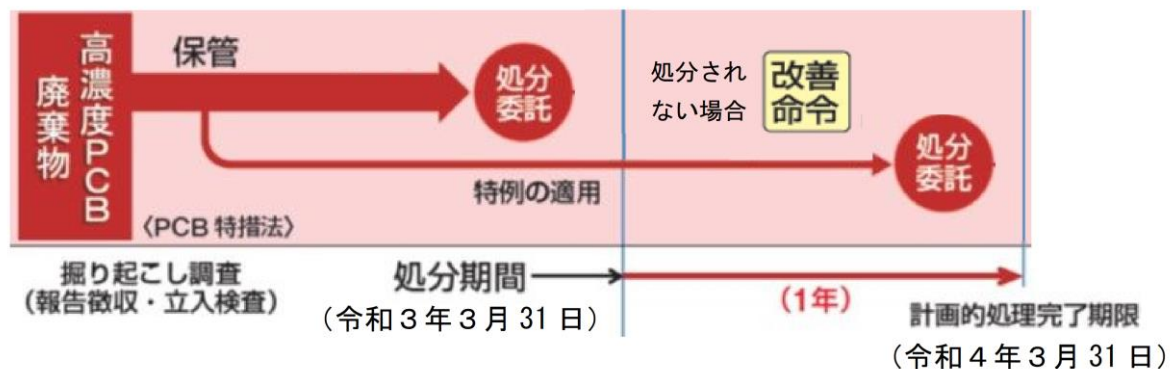
- ① 平成30年度末：400者
- ② 令和元年度末：209者
- ③ 令和2年7月31日時点：129者 ⇒ 令和2年12月31日現在：59者

[処理手続が進まない理由]

ア 処理費用の工面が困難	32者 ⇒ 9者
イ 処理制度に納得できない	41者 ⇒ 19者
ウ 保管者と連絡が取れない	50者 ⇒ 28者（内10者は保管者機器不明）
エ 使用中	6者 ⇒ 3者

- ④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、会社業績悪化等の影響で処理の延期を申し出る保管者が出ていましたが（21 者）、内 15 者については搬入済もしくは処理意向確認済となっています。
- ⑤ 管轄自治体のご指導（法律の主旨説明、処分期間等の状況）及び中小企業者等軽減制度の拡充により、処理手続きを進める保管者が増えてきました。

高濃度 PCB 廃棄物（大阪事業エリア）の処分期間と計画的処理完了期限は次のとおりです。



7. 処理手間物・困難物

処理手間物・困難物とは、通常のPCB廃棄物の処理に比べて手間・時間を要するものであって、令和2年12月時点でトランス14台（全て平成30年度中に処理完了）、コンデンサ87台（内86台処理済み）、廃PCB油類597本（内196本抜油済み）が存在しています。

これらのPCB廃棄物の種類、状況、処理方針、処理年度等については、以下に示すとおりです。

トランス類については、コアをコンクリートで固化したもの、地下設置物、高所設置物や水没したトランス、コアが炭化したもの等がありましたが、現地抜油・解体後処理施設に搬入する等の対応により、14台全て処理を完了しました。

同様に、コンクリート固化されたコンデンサが判明しておりましたが、ドラム缶の開封後コンデンサのブッシングのみが入っていました。

(1) 処理手間物のコンデンサ



ドラム缶のコンクリート固化物を開封後ブッシングと判明

表-19 コンデンサの状況と処理方針

	種類	台数	重量kg/台	状況	処理方針	調査着手年度	処理済・または予定年度
①	漏洩品のコンクリート固化(ドラム缶)	62	10	破損品・漏洩品をコンクリート詰めし、ドラム缶に封入	保管者にてコンクリート除去、搬入後、ドラム缶ごとVTR処理	H26年度	H28年度済み
②	漏洩品の鉄箱入り	15	50	保管庫の入口を溶接し、保管鉄箱の蓋も溶接	保管者にて鉄扉、溶接箱の開封、漏洩品を補修(碍子部)後、VTR処理	H26年度	H28年度済み
③	破裂品(ドラム缶)	1	38	破裂コンデンサと汚染物の混入	保管者にて分別後、VTR処理	H26年度	H28年度済み
④	漏洩品のコンクリート固化	8	100~140	コンデンサの周囲に型枠を作り、コンクリートを流し込み固化	保管者にてコンクリート除去、搬入後、VTR処理	H27年度	H29年度済み
		1	21.7	コンクリートにて固化(写真)、開封後ブッシングであることが判明	保管者にてコンクリート除去後、ブッシングをVTR処理	H26年度	R3年度処理(予定)
合計		87					

処理完了